

江口 いと

四国中央市



江口いと (1912~2009)

江口いとさんは、大正元（1912）年、四国中央市土居町に8人兄弟姉妹の末っ子として生まれた。いとさんは、幼いころに父親を亡くすも、母親や兄姉のおかげで特に不自由を感じずに大きくなったという。

結婚後、二人の子宝に恵まれたが、夫は戦争のために亡くなってしまふ。二人の子どもを育てるために蟹立網漁などをして生計を立て、一生懸命働いていた。そんな中、台風のために畑が流され、最愛の母を失うなど失意の中で、いとさんは病気

になってしまった。そのため、船や網も売ってしまい、小さな駄菓子屋を営みながら生計を立てた。小学校から帰ってきた二人の子どもたちも、店を手伝っていた。

昭和25（1950）年、いとさんは、地域の子どもたちのために子ども会を始めた。いとさんが住んでいた地域は、差別のために多くの人々が貧しい生活を強いられ、子どもたちも家の手伝いで一晩中働き、学校に行けないことが多かったという。そんな子どもたちを集め、読み書きを教えた。そのうちに、小学校の先生も参加してくれるようになった。みんなで一緒に遊んだり、地域のためになることをしたり、地域の歴史についても学んだ。子ども会の活動を通して、子どもたちは、自分たちの命が多くの人々によって受け継がれてきたこと、そして、自分たちはかけがえのない仲間であることを確認しあった。いとさんが始めた子ども会は、今も続いており、いとさんがつくった子ども会の歌も歌い継がれている。

さらに、我が子の就職差別を機に、いとさんは、解放運動へと歩みを進めていく。全国各地へ出かけ、3000回以上の講演を通して、同和問題の解決を訴え続けた。やさしい口調の中にも、差別の不合理性、そして、差別に対する憤りが伝わるものだったという。

講演の中で伝えられるいとさんの短歌や詩。そこには、差別への思い、子ども会への思い、親としての思いなどが、数多く込められている。

〔参考資料〕

土居町教育委員会 『生きることは』

四国中央市立長津小学校 『ふるさとの偉人 絵物語』

江口いと 『荊を越えて』